<u>本</u>編

1 おいでんまつり 踊りの現状

○現在のコンセプト ※一部抜粋

『市民が楽しみ、感動し、訪れる人を温かく迎えるふるさとのまつりを共働の力で育てます。』

○踊り参加者(おいでんファイナルのみ)

第39回(平成19年、見直し翌年) 参加連 228連 参加者 9.262人

参加連・参加者ともに半分以下に

○マイタウン会場

第39回(平成19年、見直し翌年)

会場数 17会場

▲ 第49回(平成29年)

▼ 会場数 14会場

(旭地区、小原地区、保見地区を除く全地区)

(豊田市内全地区で開催)

豊田市全体で開催されるまつりに

- 2 実行委員会での意見 (平成29年1月、5月、8月開催分)
- ・踊り部会で小・中学生、学校・PTAの協力をいただけないかと試みたが、保護者、学校の理解を得ることが難しい。今後は高校生にPR等の協力をいただけるよう進めていきたい。(1月)
- ・旅行会社等と連携して見物ツアー等が行えないか。(1月)
- ・マイタウンおいでんで地域の参加者が増えるよう努力していきたい。(5月)
- ・座って踊りが見れる観覧席を設置してはどうか。(8月)
- ・金曜日の夜も自由に参加できる前夜祭のようなものがあるとよい。(8月)
- ・踊り連の500人増加など具体的な目標を立てるとよい。(8月)
- 3 マイタウンおいでん運営者へのヒアリング結果(H29.8~9月 計14人に実施)

開始から10年が経過したマイタウンおいでんについて、全14会場の運営者からこれまでの総括や今後の課題についてヒアリングを実施した。

- ○各マイタウンでの問題点(☆…マイタウン全体の問題点)
- ・イベント内容のマンネリ化
 - …毎年新たな企画を検討しているものの、同じような内容になってしまう
- ・地元の踊り連の消滅
 - …地元から連を出すことも難しくなりつつある

☆マイタウンの人材不足

…マイタウンの次世代を担う人材の発掘・育成に苦戦している

·PR不足

…マイタウン情報誌なども発行されているが、踊り連への告知などが遅れ ている

・会場のキャパ不足

…これ以上観客が増えると会場が窮屈になり、また駐車場が不足する可能 性もある

・天気

…梅雨で雨が降る可能性が高く、延期・中止の対応が難しい

・賞を取る踊り連の固定化

…マイタウン大賞など賞を取る踊り連は固定化。運営者から見ると「賞金 稼ぎ」の踊り連もいる

☆ファイナルとの関連性

…マイタウンとファイナルの関係性は薄く、自分たちの担当のマイタウン が終わると、おいでんも終わったという感覚

・<u>予</u>算

…多くのマイタウンが補助金の範囲内で運営しているが、一部は協賛金 などで不足分を調達している

・マイタウンごとの温度差

…それぞれ思いを持ってマイタウンを運営しているが、運営代表者どうしや、組織内でマイタウンに対する温度差がある

○次年度以降に生かせるアイディア

・マイタウン同士の「横のつながり」の強化

…マイタウン合同スタンプラリーの実施など、各マイタウンがつながり、 豊田市全体が盛り上がるまつりに

・マイタウンでの踊り連説明会の実施

…既に取り入れているマイタウンもあるが、踊り連と直接触れ合う機会が 持てる

・踊り連募集前のマイタウン情報の告知

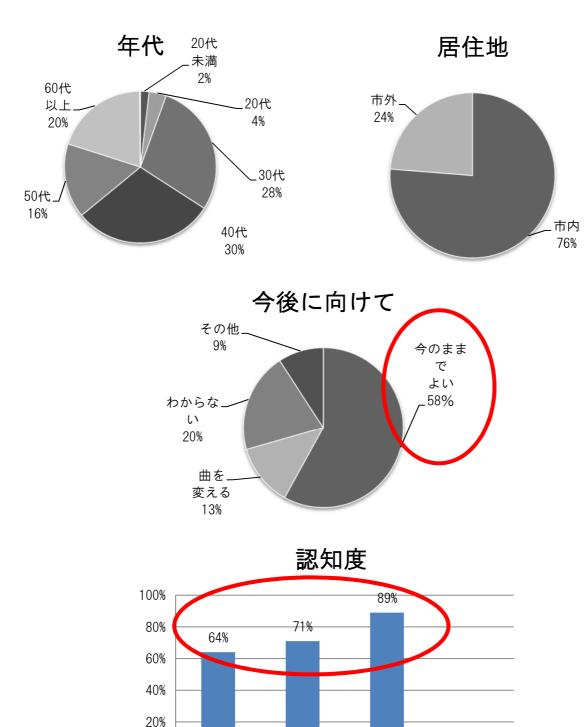
…各地域の特色あふれるマイタウンを、踊り連募集前から PR することで、 会場選択の参考にしてもらう

4 産業フェスタ来場者アンケート結果 (H29.9.23~24 実施)

9月23日(土)、24日(日)に開催された産業フェスタにおいて、来場者を対象に 簡易的なアンケート調査を実施した。

○主なアンケート結果

アンケート総数 598 (土曜日:369、日曜日:229)



※まつりの認知度は高いが、今のままの踊りでよいが半数以上である。

花火

3%

知らない

ファイナル

0%

マイタウン

5 市民アンケート結果 (H29.10月実施)

○15歳以上75歳未満の市民5,000人を無作為抽出、回答数2,004(回答率 40%)

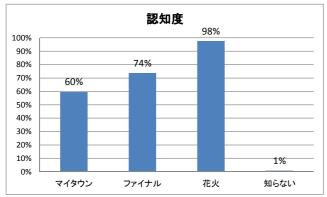
○回答者の属性 性別 男性 約4割、女性 約6割

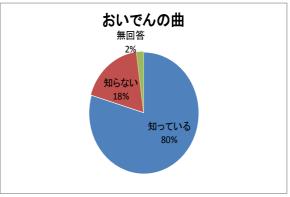
居住歴 10年以上在住者が約9割

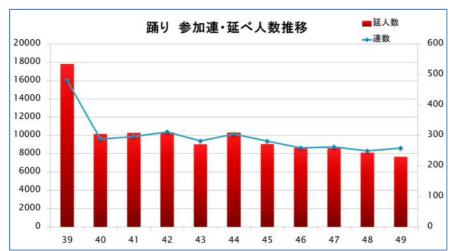
世代 60代が最も多い(24%)が若い世代からの回答も多い

以下、分析結果

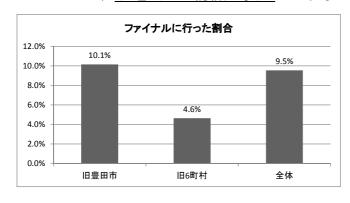
(1)まつりの認知度や曲の認知度は非常に高いが、参加者数は伸びていない。

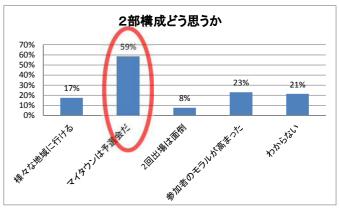




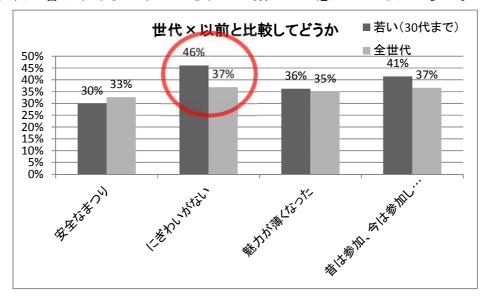


(2)旧6町村の居住者はファイナルに行く割合が低いため(旧6町村4.6%、全市9.5%)、マイタウンがなくなると、おいでんまつりに触れる機会が失われる可能性が高い。ただし、予選会との認識が強いため、参加しやすさをPRする必要がある。

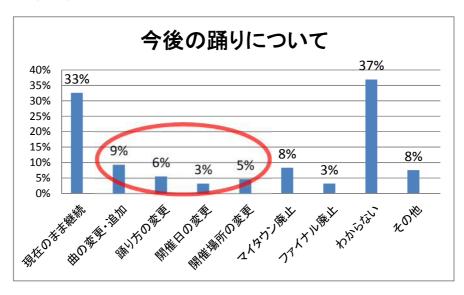




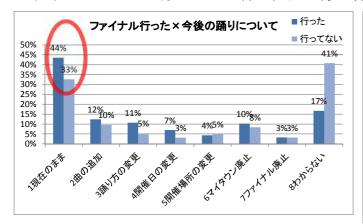
(3)若い世代は昔よりもまつりににぎわいが減ったと感じている人が多い。

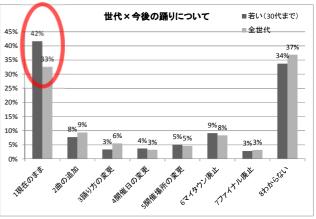


(4) 開催日、開催場所等の変更を望む声は少ない。(開催日の変更3%、開催場所の変更5%)

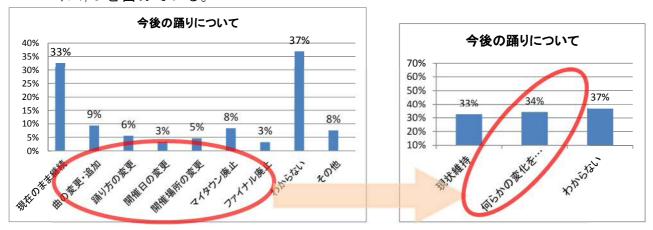


(5)ファイナルに行った人や若い世代は特に現状のまま継続することを望んでいる。

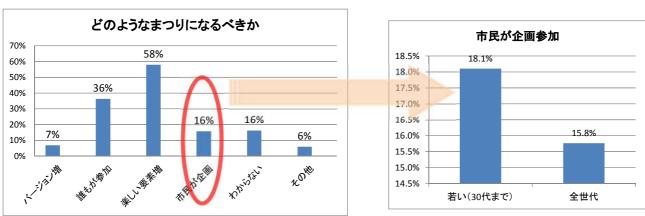




(6) 今後の踊りについては、「現状維持」「何らかの変化を望む」「わからない」がそれぞれ 1/3 を占めている。



(7)楽しい要素を増やすことを望む声が多い。また、市民参画意識については、若い世代が比較的高い。



- 6 おいでんまつりワークショップ (H29.12.16 場所: 崇化館交流館 参加者: 9名) 市民から広く自由な意見を聞き取ることを目的に、「おいでんまつりがより魅力的な まつりになるためには?」というテーマで、ワークショップを実施した。
 - ○参加者からの主な意見

<u>踊る日程を増やす</u>

…ファイナル前日の金曜日や花火大会当日の日曜日も踊りたい

ボランティアも主役のまつり

…ボランティアも楽しんでまつりに参加する

賞の充実

…オーバーエイジ枠などの賞の新設や、豊田市の特産品を賞品にする

情報発信

…PVコンテストの開催、Youtube で発信

地域に根付くお祭りへ

…幅広い年代が輝くまつり

おいでんに関心を持つ仕組みを

…わかりやすいテーマを掲げる など

7 検討委員会での議論 (H29.6~12 計6回開催)

【課題】

【主な意見】

(1)踊り参加者の減少に ついて



- 参加のしやすさが伝わるPRを行う。
- 誰もが踊れる曲や振付けがあってもよい。

(2) さらなるまつりへの 市民参画について



- ボランティアも楽しめるまつりにする。
- ・踊りに関する情報を市民が主体的に発信する。

(3)若者の参加増に ついて



- ・若者が踊りに参加したいと思う機会や仕組みが 必要である。
- ・踊り以外にも楽しめるイベントを追加する。

(4) その他



- ・マイタウンとファイナルの関連性は継続する。
- ・踊り連どうしのつながりや地域とのつながりが 持てる仕組みを作る。
- 8 方向性とコンセプト (H30年1月実行委員会承認)

(1) おいでん(曲)の継続

 $\leftarrow 5-(4)$

(2) 開催日・開催場所の継続

- \leftarrow 5-(4)
- (3)マイタウン・ファイナルの開催継続
- \leftarrow 5-(2), 7-(4)
- (4) 新たな楽しめる要素の付加「わくわく」
- \leftarrow 5-(1), (3), 7-(1), (3)
- (5)踊りへの参加しやすさの構築〔多様性〕
- \leftarrow 5-(2), (5), (6),
 - 7-(1), (3)
- (6) 持続可能なまつりに向けた運営への 市民参画、若者の参加増〔WE LOVE〕
- \leftarrow 5-(7), 7-(2), (3)

みんながわくわくし、多様性にあふれ、

「WE LOVE とよた」を体感できるまつり

9 検討委員会での議論及び踊り見直しに向けての骨子

方向性	検討委員会での議論			
(H30年1月 実行委員会承認)	(H30年1月、2月、3月、4月 計4回開催)			
新たな楽しめる 要素の付加 〔わくわく〕	①おいでん踊りの魅力向上 ・子どもやお年寄りなど、誰もが簡単に踊れる振付があるとよい →振付の変更・追加 ・おいでんを踊れる時間を長くする →前夜祭の実施、ファイナル当日の昼間の活用 ②家族で楽しめる場の提供 ・観客が踊り以外でも楽しめるまつりにする →魅力あふれる会場づくり ・ファイナル会場全体を使ったスタンプラリーなどの企画を実施する →踊り会場の回遊性向上 ③踊りを支える人の魅力発信 ・ボランティアの活動にも焦点を当てた広報を行う →SNSでの情報発信、ボランティアへの参加促進			
踊りへの参加し やすさの構築 〔多様性〕	 ①おいでん踊りの魅力向上(再掲) ②家族で楽しめる場の提供(再掲) ③踊りで地域の魅力を発信できる場の提供 過去のおいでんの映像や展示を実施する 各地区の民謡の披露や郷土芸能を披露する場を設ける			
持続可能なまつりに向けた運営への市民参画、若者の参加増 (WE LOVE)	 ①踊り関係者等による情報発信の充実 ・踊り関係者もSNSなどを通じて新たな視点でおいでんを発信する			

第 51 回 骨子

※H30年5月 実行委員会で承認

誰もが楽しめるコンテンツの創作





新たなまつり空間の創出





まつりの魅力を発信する ネットワークの構築





10 骨子を実現したときのおいでんまつりの様子 ※イメージ図

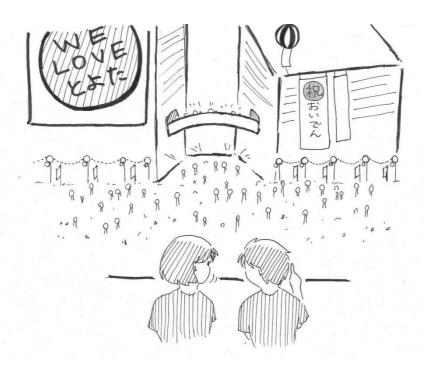
●誰もが楽しめるコンテンツの創作

- ・子どもや高齢者に親しみやすい振付の追加等により、様々な世代が参加している
- ・観客も飛入連でおいでん踊りを楽しんでいる
- ・踊りの参加者だけでなく、観客を含め、全ての人が楽しめるイベントが 催されている



●新たなまつり空間の創出

- ・駅前広場を活用し、観客が踊りをゆっくりと見学できている
- ・公共的空間を活用した踊りの披露や、会場の様々な場所でまつりを感じる
- ・おいでんまつりの事を自由に語るスペースが設置されている



●まつりの魅力を発信するネットワークの構築

- ・踊り連同士が年に1回再会する場、「同窓会」として再会を楽しんでいる
- ・踊りの参加者だけが主役ではない、ボランティアや踊り関係者の力により運営されている、将来にわたり持続可能なまつりとなっている
- ・高校生や大学生など若い世代が中心となり、まつりを引っ張っている様子



●おいでんファイナルでの一コマ



おわりに(第51回以降のまつりに向けての提言)

豊田おいでんまつり実行委員会長 様

平成元年に「豊田おいでんまつり」として生まれ変わり、今年で 30 年が経過しました。この間、多くの市民の参加でまつりは拡大を続けましたが、ここ数年は参加者の減少傾向が続き、まつりのあり方について再考する時期に来ていました。

今回、市民を対象としたアンケート結果を通じて、おいでんの曲が市民に広く浸透していることや、地域のまつりである「マイタウンおいでん」が予選会として誤認されていること、今後のまつりには楽しめる要素を増やして欲しいなど、実態を把握することができました。その一方で、多くの市民がまつりに無関心になりつつあることもわかりました。

おいでんまつりは豊田市を代表する一大イベントであり、風物詩でもあります。今後も、市民に親しまれるまつりとして継続するために、「マイタウンおいでん」と「おいでんファイナル」の関係性は維持しながら、骨子である

- ・誰もが楽しめるコンテンツの創作
- ・新たなまつり空間の創出
- ・まつりの魅力を発信するネットワークの構築

に沿った施策の実施を提言します。

特にまつりに関する情報発信は、直ちに取り組んでいただくことを望みます。

最後に、この報告書が今後のおいでんまつりの発展の一助になれば幸いです。

平成 30 年 8 月

おいでんまつり検討委員会 委員一同